

巻 頭 言

「2006 年度活動を振り返って」

東京大学大学院助教授、CAUA 運営委員長

斎藤 馨

ひょんなことからかどうかわかりませんが、CAUA 創立より運営委員長を務めてこられた金森先生がご多忙なため、情報科学を専門としていない私に運営委員長のお鉢が回ってきました。不慣れではありますが林会長をはじめ運営委員の皆様、事務局や会員の皆様の助けをお借りして CAUA の活動を発展させていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

2000 年 3 月に創立した CAUA は、7 年目に入り活動が安定してきていると思っております。同時にフォーラムとシンポジウムで取り上げる題材と講演していただいている講師の方々の話題には、大学の情報利用や計画において今まさに問題になっていることや、将来に備えて知っておくべき事例や知識が満載で、大学にいて何となくコンピュータやネットワークを使っている我が身にはとても新鮮に感じる内容になっています。このことは、近年のフォーラムやシンポジウムに会員以外の多くの方が参加され、大変活気ある様相を呈していることから明らかです。

6 月の CAUA エグゼクティブフォーラムでは、株式会社ブルワークの大野様から「大学における IT 課題への対処」と題して、大学で起こりがちな IT 整備の混乱を「予算」、「意志決定」、「技術・設備」の 3 つのレイヤーから整理する業務フローを紹介いただきました。また CAUA との共同開催のメリットである、産学交流・異業種交流懇親会が開催されました。私も産業界の方と情報交換ができ、後日研究所にお邪魔することができました。

10 月には、シンポジウム「情報センターと図書館の融合の行方」を開催しました。基調講演には千葉大学土屋先生より「情報センターと図書館の融合の行方」と題した講演をいただきました。その中身は双方の現場を知り尽くしていなければ説明できない貴重かつ一部挑発的な内容で、参加者だけが迫力を持って感じることで多くの情報が多く、様々なヒントを得ることができました。これを受けてのパネルディスカッション「情報センターと図書館の連携・融合はシナジーを生むか!」では武蔵大学情報メディアセンター事務長小野様のコーディネートにより、具体的な現場担当者による事例紹介と現状分析に触れることができました。

12 月には、地方に展開する CAUA 活動として定着してきたシンポジウム「故郷・伊予の地域情報化の行先」を愛媛大学にて行いました。残念ながら私は本務所用で参加できませんでしたが、林会長による「故郷の未来に何を描くか～IT 戦略の展開を振り返って～」と題した基調講演と 2 部からなるパネルディスカッションが開催されました。林会長が長年積み上げてこられている「地域の情報化」を題材に、大学だけでなく行政や民間を交えて地域において開催するシンポジウムも、CAUA ならではの重要な活動になっています。

最後に、View Point をお手にされお読み頂いている皆様、もしこれらの会場にお出でいただいたことがないのでしたら、是非 CAUA の主要な活動であるフォーラムやシンポジウムに是非一度ご参加くださいますようお願いを申し上げて、巻頭言と致します。